

## L14b                    リニア彗星 (C/1999 S4) のモニター観測

室井 恭子 (東京学芸大学), 中島 崇, 福島 英雄, 渡部 潤一 (国立天文台)

我々は、国立天文台 (三鷹) の口径 50cm 反射望遠鏡に液体窒素式冷却 CCD カメラ (写野 :  $14.8' \times 9.9'$ ) を取り付け、1999 年末からリニア彗星 (C/1999 S4) の撮像観測を行っている。この彗星は近日点通過の 7 月 26 日頃には肉眼彗星になるのではないかと期待されており、観測者の間で注目されている。三鷹での観測開始時の等級は 1999 年 12 月 9 日 15.2 等級 (V)。地心距離  $r=3.5 \sim 3.0$  AU で一時減光した後、ゆるやかに増光し、その後急激に増光、7 月 3 日現在は 8.5 等級 (V) である。この、一時減光するという現象は、ヘール・ボップ彗星 (C/1995 O1) のときにも同じ地心距離で見られた。ヘール・ボップ彗星の光度上昇の停滞のパターンについては、1) 活動領域説、2) ダストコマの蒸発説、3) 位相角依存性説がある。これらのモデルとリニア彗星のデータとの比較検討を行う。